

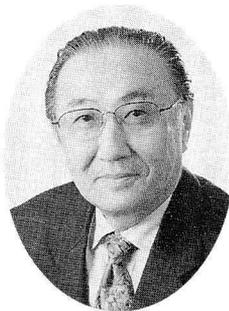
幽玄

題字 高秀秀信

横浜能楽連盟
会報 No.30

平成17年11月15日

新しい試みに想う



会長 新堀豊彦

横浜能楽堂は明年開館十周年を迎えます。早いものです。その間山崎有一郎館長を中心に、全国的に見ても類のない斬新、かつ実験的な数々の舞台を提供されたり、子供狂言教室をはじめ、一般に広く能狂言に親しんで頂ける企画を次々に実現して来られたのは御高承の通りです。

能狂言の新しい発進基地として横浜能楽堂はゆるぎない地位と実績をつくり上げたとして、も過言ではありません。

しかし私共、アマチュアの愛好者の集りには、仲々そうした新しさを求めたり、企画することは出来ません。当り前の事ですが、私たちはただひたすらに稽古し、年に何回か本舞台に出

られれば満足というのが普通であり方でもあります。

それでも今回の五流能楽大会では、久しぶりに素人による演能「鉢木」や、各流が「小督」の「駒之段」をそれぞれ謡うという、まことにささやかな試みもやってみました。歴史と伝統を持つわが連盟としては、こうした形での活性化は、常に考え挑戦することを恐れてはならないと思います。それと同時に私たちの仲間のグループが、それぞれで取り組んでいる意欲的な試みにも大いに注目したいと思います。

即ち昨年末行われている喜多流「海謡能」は、横浜港大棧橋ホールにおいて千名以上の市民を集めるといふ試みであります。本年もその第二回目が行われ、成功裡に終了しました。横

浜の「港」をバックに「海」を感じさせるこの大規模な演能は、まさに横浜という土地柄を強く打ち出した異色のものであり、かつて行われていた山下公園における「横浜新能」を装いあらたに、市民と能を近づけるための大きな効果があったと思われる。主催した「NPO法人ヨコハマ未来地図づくり一〇〇人委員会」のご努力に対して、この機会に賛同を申し上げるとともに、その労を大いに謝したいと存じます。

又さらに、これは平成十八年八月、横浜能楽堂において発表されることと決定しております。新作能「横浜」について注目すべきでしょう。

これは、既に三年越しで、「横浜飛天双〇能実行委員会」が企画されたきわめてユニークなもので、この実行委員会そのものが実は天下に名だたるオートバイクラブ「ケンタウロス」によって立ち上げられたものであります。

バイククラブが主催者になること自体異色であります。実はそのメンバーの中に大倉正之助師（大鼓職分）が入っており、既に横浜において、九回の演能を実現し、数作の新作能も手がけて来ているという実績をお持ちであります。

とくに十回目を迎える来年の

出し物として「横浜」を舞台とし、「横浜」をイメージさせる新作能のストーリーを全国から公募し、応募があった五十数篇のなかから選ばれた作品を、新作能作者として定評のある多田富雄氏が組立て脚本化し、観世栄夫師による舞台が演ぜられる予定であります。

従来、横浜を舞台とした能は、「六浦」と「放下僧」しかありません。今回は「横浜」そのものであり、みなとみらい地区が舞台となって展開する現代感覚の能になるようであります。いかなる能が誕生するか、大いなる期待をもって公開される日を待ちたいと思っております。ですが、いずれにしても当連盟において、こうした新しい実験的な試みに対しても、全面的なバックアップをして参りたいと存じます。

こうした一見突拍子もないと思われる動きが、日本の能楽界に刺激を与え、古典芸術としての歴史と伝統を踏まえながら、二十一世紀に生きぬく力を能は持ち続けることになるのではないのでしょうか。

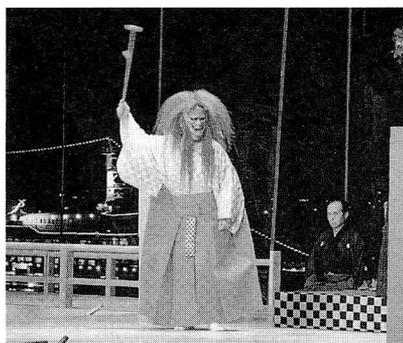
横浜大さん橋海謡能を

再度開催して

喜多流 吉田 州男

昨年に引き続き、今年も七月

二日に「第二回 横浜大さん橋海謡能」を開催させて頂きました。二回目ということもあり、昨年よりは準備に余裕があるつもりでしたが、二度目の難しさなんでしょうか、想定外の問題がいくつか発生しまして、はたして皆様に十分に満足してお帰り頂けたかどうか心配しているところでございます。



第二回 海謡能「紅葉狩」友枝昭世師

しかし、日本古来の伝統文化能楽の発展と普及に少しでも役に立ちたいとの願いとともに未だ開港から一五〇年の歴史しかない横浜に、何とか伝統のある文化催事を定着させて、産業のためだけに発展してきた横浜の港に、新しい魅力ある顔を創り、市民の皆様にも親しめる香りある催しとして、横浜開港一五〇周年記念事業として継続していきたいと考えております。当会が平成十五年十一月「ヨコハマみなとカーニバル二〇〇

三海の上で「こんにちは」を、横浜の次世代を担う小学児童を対象に、乗船会や発表会を無料で開催して以来、毎年継続して行っておりませんが、これも大さん橋ホールを子どもたちにも親しみのある、楽しい思い出の場所として記憶して欲しいからでございます。

今年も十一月二十日(日)に、両陛下にご臨席いただき第二十五回全国豊かな海づくり大会のプレ・イベントとして開催致しますが、この横浜港の大ホールを魅力ある観光資源として育てるため、何を持って育てるべきかを考える結果が、横浜港を背景にした新能を復活させようとの企画でございます。

宮島での観月能のご縁と、能楽の師でもあります喜多流友枝昭世先生にご無理をお願いし、横浜能楽堂館長山崎有一郎様、横浜能楽連盟新堀豊彦会長からのご声援とご支援を得まして、大さん橋ホールが特殊な構造物で火が使えないことと、海を背景としての演出を意識して「海遙能」という新語をつくり、横浜ならではの海の上にある舞台として、昨年第一回目を開催させて頂きました。

ご存知のとおり、能楽堂は正式な能舞台ですが、大さん橋ホールは木材を全面に使った構造ですので、床も足音に敏感に反

響しますし雑音が悩みの会場でございます。又海の夜景を背景にしますので、ガラスにライトが反射致しますがこれも少し気に入りません。でも総体的には全国でもめつたにない、野趣に富んだ「横浜らしくて、面白い舞台だ」と朝日新聞をはじめ各マスコミが絶賛してくれました。お陰様でこの記事を読まして、私の心も大きく慰められた次第です。

この催事に会員の皆様には、能楽堂友の会やご友人を介して二年間もお力添えくださいましたことに、深く感謝致しております。横浜港の魅力ある顔として認められる道程はとても遠く先が見えておりませんが、皆様からのご声援を信じて来年も開催に向けて挑戦して行きたいと念じておりますので、よろしくお願い致します。

平成十七年度

定期総会報告

企画事業担当 鈴木 力雄

一、定期総会報告

総会は四月一日現在の会員数五四二名(前年比十三名増)のうち三十三名の出席(委任状によるものを含む)により平成十七年四月二十五日午後二時から横浜能楽堂二階レストランで開催された。

新堀会長挨拶、来賓祝辞(能楽堂館長代理中田昭彦氏)のあと、連盟規約に基づき会長が議長となつて各議案が審議され、十六年度活動報告決算報告、監査報告、十七年度の活動計画(案)、予算(案)のほか規約の改正(案)が審議され、何れも原案のとおり承認された。

規約の改正については、現行規約が平成元年制定後十六年経過し、その間能楽堂が完成を見るなど連盟活動の環境も大きく変化し実態に合わなくなつてきたため、今回所要の改訂を行うものである。

主な改正点

- 事業に横浜能楽大会、五流交流のつどいなど活動を明記する。
- 役員構成を実態に合わせた編成に改める。
- 事務処理体制として担当理事を位置付ける。

二、能楽振興基金助成金の第一号

総会で承認された今年度活動計画に基づき、第二十一回「横浜五流能楽大会」で観世流梅若会の鶴池昭吾氏が能「鉢木」を演じられるに伴い、「能楽振興基金助成金交付要項」に基づく交付申請があり、六月二十七日の役員会で承認され、交付第一号となつた。

三、同一曲の五流競演

横浜能楽連盟の各流合同の構

成を生かした初の試みとして、第二十一回「横浜五流能楽大会」で下掛宝生流、喜多流、金剛流、金春流、宝生流、観世流梅若会、観世流の七会派が、一様に「小督・駒之段」を謡つた。之が好評であれば、次は仕舞を採り上げたいと考えているので、今回の試みについて評価をお寄せ頂きたい。

五流大会盛況裡に終了

当番幹事 土屋 政雄
金春流

去る九月二十四日土曜日定刻より能楽堂にて開催された。台風が近づいている雨模様の中であつたが、朝早くから来場される方は思ったより多く、本日の大会の成功が予測される感があつた。即ち本大会は五流同一曲の連吟という全く新しい企画を採り入れると共に、久し振りの素人能でしかも有名、かつ趣きのある能が上演されるので尚更集りが良いと感じた次第である。

当日は能を始め素謡、連吟、仕舞等三十六番の予定であつたが仕舞一番が都合で中止となつた事は残念であつた。前半は申告時間をオーバー気味で気掛りであつたが、後半はとり戻して、丁度十七時に終了したのはなによりであつた。

「小督・駒之段」による五流連吟は五流二派の方々が強弱あ

り、調子の変化もあつて、初めての試みとしては良かった。又、各流の特徴が出て判りやすかつたと思う。

ある人が今まで謡は良く聞いて知っていたつもりだったが、流派間には謡い方にこれほど違いがあるとは思わなかつた、とても勉強になつたと感想を述べられた。この事は出演時間が六分八分に分かれていた点からも納得出来る。

また、仕舞では男性の地謡、女性の舞いが共にテンポ良く力感に溢れ調和のとれた仕舞を見て素敵だと思つた。今後共そうありたいと思う。

そしてなんとといっても、「鉢木」の能(観)梅若会の鶴池さんのシテで演じられたが、語りの多い難曲で大変苦労されたと思うが落ち着いていて、素晴らしい内容の能であつたと感服した次第である。

今後とも新しい企画を考え実行することが重要であると思う。さて、担当流派としては矢張り一般演目では申告時間を守るよう各流責任者は気配りいただき、出演者は練習して欲しいと思う。今回は延三百名の出演で男性が七割であつた。最後には見所は満席の状態で大成功であつた。最後に関係者の方々のご協力を得て無事終了することが出来ました事を深く感謝申し上げます。

五十年の節目

宝生流 秋山 尚

私が謡曲の道に入りましたのは、或る縁で故高島徳之師（名人・松本長師直系）に昭和三十年に入門、稽古を付けて頂いたことに始まります。

徳之師ご他界の後は、小倉敏克師の御指導を賜って参りました。この間には能『清経』『東北』も披かせて頂くという幸運にも恵まれました。又、宝生流教授囑託会や横浜宝生流連合会、更には横浜能楽連盟等の催しで楽しく謡い、舞い続けることができ、誠に有難いことと存じております。

或る時、一部の流友の方々より稽古を受けたいとの要請があり、現在の尚宝会を主宰する次第となりました。未熟な芸ではありますが、謡曲の啓蒙と流派発展のお役に立つなればとお引受けし、お陰さまで皆さんと共に楽しく、今日まで稽古を続けしております。

さて、今年は斯道に入りましたから五十年の歳月を数えることと、偶々古稀を迎えるにあたり、一区切りとなりました。

節目の記念として、普段より御厚誼を賜っております流友の皆さんや、お弟子さん共々に一日舞台をご一緒させて頂く会の計画をいたしました。



舞囃子「松虫」 蒲谷サダ江さん

去る、六月十二日（日）横浜能楽堂本舞台に於いて、尚宝会「謡と仕舞で遊ぶ」と銘打って開催する運びとなりました。当日は百数十名におよぶ出演者の御協力により、素謡十二番、独吟一番、仕舞十一番、舞囃子一番と豪華な番組になりました。特筆すべきは八十六才のお弟子の方が、「松虫」の舞囃子を立派に舞われたことにただただ頭の下がる思いでした。

この催しには、新堀会長を始め、流派あげての御支援に深く感謝しております。

今後、謡曲道の発展に少しでもお役に立つべく、努力してまいります。

忠度と六弥太

観世流 梅若会 佐甲 富江

東京生まれで東京育ち、ここ横浜に暮らして三十年にもなる

私は幸か不幸か「故郷」というものを持たない。子供の頃から「いなかへ行く」という経験もないし、お正月やお盆に帰省するという事もしたことがない。だからという訳でもないが今でも大勢の人が動く時や場所へはあまり出掛けたくない。近頃、夏は特に暑さだけで疲れるようになり、ただただダラッと過ごして一日が終わってしまう。

今年の夏も終わりに近くなつて少しは変化をつけなければと思ひ、又少々用事もあったのでついでに山の温泉にでも入りたいと思ひ出掛けることにした。

埼玉県の深谷を通る予定があり、ふと、その地方に岡部六弥太忠澄の墓があるというのを思い出した。こんな機会はありませんし、いし急ぐ旅でもないのだから立ち寄ってみようと思つた。

大里郡岡部町、国道からちよつと歩くだけで回り一面畑の中にその墓所はあつた。鎌倉時代の典型的な五輪塔が並び、中央が忠澄、向かつて右は父行忠、左は夫人の墓と伝えられる。

六弥太は、一の谷の戦いで平忠度を討ち取り一躍名を挙げた事は謡曲『忠度』に勇ましく語られ、その場面の長い仕舞のお稽古にはかなり苦労した思い出がある。又もう一度といつても今ではとても無理だろう。

武勇に優れ、又、藤原俊成に

師事し歌道にも優れたこの忠度の菩提を弔うため領地の中で最も景色の良い地に供養塔を建てたという。それは深谷市内の清心寺に在り、六弥太は慈悲深い人だったのか、また、忠度の人柄に感じ入るところがあつたのでしょうか。境内には紅白二色の花卉が重なり咲く桜があり「夫婦咲きの桜」又「忠度桜」として有名だそう。

血生臭い戦場においても歌の心を忘れない風雅な平家、又その公達を討ち取らなければならなかつた人の心意気、このような逸話の数々が源平期の魅力でもあるのでしよう。

この二つの史跡を歩き、都会から少し離れただけで、まるで時が止まったかのようなゆったりとした気分を味わうことができ

た。夜、何の物音もない山の温泉で一人露天風呂に手足を伸ばしている、今夜の夢に素敵な若武者が現われるのではないかと秘かな期待も出て来るのでした。

荒井君兄弟とのことども

副会長 高岡 幸彦

私の中学の同期生に牛鍋の荒井屋の倅、荒井精一君がいた。

彼は体格もよく柔道部のキャプテンであつた。当時の中学生

は正課として柔道か剣道を習うことになっており、私は運動部としては弓道部であつたが、正課には剣道を習っていた。道場は一つで真中が仕切られていただけなので双方まる見えであつた。或時荒井君が柔道を教えてやるというので柔道着を借りて組んでみたが、「ソレー」という掛声と共に彼の得意の内股で私の身体は宙に浮いた。しかし加減してくれたのか痛いという事は全然なかつた。

卒業して彼は陸軍、私は海軍と分れたが、終戦の時私は台湾、彼は満州で任務に着いていた。

私は終戦の翌年の三月に内地に帰還したが、彼はシベリヤへ抑留され更に数年後、やっと苦勞をして帰つてきた。そして昭和二十年五月二十九日の横浜大空襲で彼のお父上が警防国員として殉職されたので跡を継いだ。

この春、横浜能楽堂でこの荒井君の弟さんという人（名前は芳雄君と言われた）にお会いしているとは聞いていたが弟さんの事は全然知らなかつた。荒井君と十五才違うというので当初は若いと思つたが、自分の年を考えると七十前後かと思われる。

今夏、芳雄君からこれまで能・謡曲に親しんでこられた現在の心境を被瀝され、この度、新作能を創りたい旨のお話を伺つ

だが、私は謡曲は六十年親しんできたが能を作るといふ事は全く無知であるから未だ返事も書けないでいる。

そして久良岐舞台で新作「久良岐」を謡われた金剛流の熊谷先生にも御指導を仰いだとの事、又、後便で国立能楽堂で「原爆忌」を観てきた事、多田富雄先生の「長崎の聖母」のパンフレットを見て、居ても立っても居られぬ程の気持ちになつて居るとの事を書いてこられたが、新作の謡曲は戦争中家元の作られた「海軍」といふ謡曲位しか接した事のない私にはどうにもしようもない。

機会があつたら「原爆忌」や「長崎の聖母」などの新作能を観て、敗戦の悲惨さをお能を通して後世に伝えるのはどうしたらよいか考えたいと思つて居る。そして荒井芳雄君の念願が何時の日か適う様祈つて居る。

謡曲史跡めぐり

金剛流 和田 完一

謡曲を嗜むと十五の徳があると言われる。第一が「行かずして名所を知る」である。

謡本に物語の場所、詩章には数々の名所が記載されている。まさに行かずして名所を訪ねることが出来るのである。

詩章の行間から想像して、そ

の土地のイメージを拡大して、謡はこんな魅力もある。

現代人にとかく不足がちな想像力が、謡で古人の豊かな想像力とロマン性に感激すると共に教えられることが多い。

ところで、百聞は一見にしかずと言う言葉がある。その土地へ赴いてこそ土地独特の広い範囲での空気、風景、歴史を感じられるのではないだろうか。県内の史跡をご紹介します。



称名寺の青葉の楓

- 一、横浜市西区御所山町に、町名由来の「夜討曾我」御所 五郎丸の供養塔がある。
- 二、金沢区称名寺に「六浦」の青葉の楓がある。この楓は青葉のままのように謡われるが、他の楓に先駆けて黄葉するようである。
- 三、金沢八景瀬戸神社は、「放下僧」の舞台であるが、物的なものはない。
- 四、鎌倉は、舞台となった曲が

少なく、関連する人物の屋敷跡等副次的史跡が多い。

「正尊」土佐坊の屋敷跡が雪の下にある。

「六浦」冷泉為相墓が扇ガ谷にある。

「盛久」盛久が斬首を免れた頸座が、江ノ電由比ガ浜駅近くの由比ガ浜大通りにある。

「禅師曾我」国上禅師が自害した場所は甘繩神社の安達盛長邸とされる。

「千手」が重衡をもてなした屋敷跡が不明である。

ご教授願えると有難い。

五、江ノ島の神社は「江野島」

「鱗形」の舞台である。

六、小田原市曾我別所には「小袖曾我」母子対面の屋敷跡

(別所公民館)がある。

曾我兄弟、義父、母の菩提寺、城前寺が近くにある。

七、湯河原温泉は「七騎落」の舞台である。真鶴町にかけて史跡が散在している。

八、箱根神社は五郎仇討ち祈願「調伏曾我」、五郎元服「元服曾我」の舞台である。

謡曲史跡は、長年の間に、謡からのイメージにそぐわないような史跡に変化している場合がある。でも、それは年の流れを想像する楽しみにもなる。幸い、そこに石碑等がその存在を顕され

ているので、うれしい限りである。史跡は、副次的なものを含めると、数百箇所にもなる。巡りはいまだ一割にも達していない。

前途多難であるが、謡を一味より良くするため、今後も旅の楽しみを満喫するつもりである。

同好の士があれば幸いである。

一月二十一日(土) 正午より電話にて発売。

能楽堂より

十二月〜平成十八年三月の公演

横浜能楽堂では、次のとおり公演を開催いたします。

「普及公演ーバリアフリー能ー」
十二月十一日(日) 午後二時

能「枕慈童」(金剛流)豊嶋訓三
狂言「饅頭」(大蔵流)山本泰太郎

S席四千元、A席三千五百円、B席三千元。

介助者は一名まで無料。
チケット発売中。電話・窓口・ファックス・Eメールにて受付。

「普及公演ー蠟燭能ー」
平成十八年二月十八日(土)

午後二時。

能「海人」(金春流)櫻間金記。
復曲狂言「独り松茸」(大蔵流)

茂山あきら(台本・茂山千之丞)。
S席四千元、A席三千五百円、B席三千元。一月十四日(土)

正午より電話にて発売。
「特別公演」

三月十八日(土) 午後二時。

能「屋島 大事・那須」(観世流)大槻文蔵、(大蔵流)山本則俊

狂言「業平餅」(大蔵流)山本東次郎。S席八千元、A席七千元、B席六千元。

一月二十一日(土) 正午より電話にて発売。

横浜能楽堂は、おかげさまで平成十八年六月に開館十周年を迎えます。豪華な出演者で翁付五番立の能を四月から月変わりでご覧いただく開館十周年記念特別公演や、企画公演「江戸大名と能・狂言」などを予定しております。詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ・お申し込みは、〇四五(二六三)三〇五五まで。

〇四五(二六三)三〇五五まで。

〇四五(二六三)三〇五五まで。

〇四五(二六三)三〇五五まで。

〇四五(二六三)三〇五五まで。

《編集後記》

▽幽玄第三十号は、各流派からの新しいスタッフ(衆 亮一、小林美佐子、馬場洋一、三浦重信、三谷光子、室屋澄雄)の六名が担当しました。ご寄稿ご愛読よろしくお願ひ申し上げます。

横浜能楽連盟 連絡先

◎文書郵送又はFAXの場合
〒233-0013 横浜市港南区丸山台二丁目 二九一七 新堀方
FAX 〇四五(一八四四)一九〇三
◎電話の場合
横浜能楽堂 原田由布子

TEL 〇四五(二六三)三〇五〇